

舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン（第五版）

令和2年6月30日初版

令和4年7月22日改訂

一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク

1. はじめに

2020年初頭、新型コロナウイルスの感染が日本国内において広がり始めました。この感染症は、結果的に「距離をとる」「大声を出さない」といった「人間のコミュニケーション」を妨げようとする病いでもあり、その直撃を受けたのが、まさに「目の前でコミュニケーション」を生業とする舞台芸術公演でした。

繰り返される緊急事態宣言やまん延防止重点措置の下、経済的に甚大な損失・圧迫を受け、さらに「不要不急」という謂われなき中傷と、科学的根拠のない「感染リスクが高い空間」という風評被害まで被って参りました。

その中であって、当ネットワークは、安心・安全を前提とすることを第一とし、社会との親和性を図ったうえでの舞台上演のために、本ガイドラインを示してきました。

そして、公演主催者や施設管理者に有効に活用していただくようお願いしてまいりました。

その結果、上演中の劇場空間（舞台と客席間）においては、クラスター感染が起こっておらず、観客席にも安心感が戻ってきているように感じられます。

元通りとはいかないまでも、ここまでなんとか、舞台芸術界が活気を取り戻しつつあるのは、舞台芸術界が一丸となり、本ガイドラインに沿って上演を繰り返して来た賜物かと思われれます。

この度は、これまでの感染状況との違い、とりわけ三回に渡るワクチン接種の普及ならびに、社会全体が少しずつコロナ禍以前へ回帰している状況をうけての、ガイドラインの改訂となります。

その目的は今一度、出演者とスタッフ、カンパニー関係者、そして観客の皆様の安心安全並びに社会との親和性を図ること、その中で許される範囲での「規制禁止事項」の緩和です。

私達は、劇場と共に生きてきた人間として、劇場という空間が、いかに日常から解放された「自由な空間」であるべきかを知っています。したがって本ガイドラインは、ただ劇場を強権的に不自由にさせるための枷ではなく、このコロナ禍の危機に瀕して作られた劇場再生の為の「過程」です。

ロビーで、観客がマスクをせずに語り、いい芝居に乾杯し、カーテンコールで歓喜の声が飛び交う、そんな空間に戻っていく日も遠くない。そう信じて、本ガイドラインを順守していただけるよう今一度、切にお願い申し上げます。

1. はじめに
 - <本ガイドラインの表記について>
2. 感染防止のための基本的な考え方
 - (1) ワクチン接種について
 - (2) 公演実施にあたって
 - (3) 注意しなければいけない場所・場面について
 - (4) 正しいマスクの着用について
3. 主催者及び施設管理者、またはそれに関係する団体並びに個人が講ずる具体的な対策
 - (1) 各所における対応策
 - ① 共通
 - ② 客席
 - ③ 会場入口
 - ④ チケット窓口
 - ⑤ ロビー、休憩スペース
 - ⑥ トイレ
 - ⑦ 飲食施設、グッズ売り場等
 - ⑧ 楽屋、控室、喫煙所等
 - ⑨ 清掃・ゴミの廃棄
 - ⑩ 車内、宿泊施設など
 - (2) 公演関係者に関する感染防止策
 - <健康管理>
 - <有症状者が発生した場合>
 - ① 上演関係者に陽性者が出た場合
 - ② 上演関係者に濃厚接触者が出た場合
 - ③ 上演関係者について、保健所が濃厚接触者の認定をしない、または保健所から連絡がなく濃厚接触者が不明な場合
 - ④ その他の関係者から、陽性者・濃厚接触者が出た場合
 - <公演前の対策>
 - <公演当日の対策>
 - <公演後の対策>
 - (3) 来場者に関する感染防止策
 - <公演前の対策>
 - <公演当日の対策>
 - ① 周知・広報
 - ② 来場者の入場時の対応
 - ③ 公演会場内の感染防止策
 - ④ 来場者の退場時の対応
 - <公演後の対策>

<本ガイドラインの表記について>

本ガイドラインの本文中に使用する用語を以下のように表記する。

- ① 来場者：公演を鑑賞するために会場に来場する者をいう。
- ② 上演関係者：キャスト及び、舞台上や楽屋に出入りのある上演に携わるスタッフをいう。
- ③ 運営スタッフ：舞台上や楽屋に出入りがない、公演開催や運営に携わるスタッフをいう。
- ④ 公演関係者：上演関係者と運営スタッフに該当する者の総称。
- ⑤ 陽性者：新型コロナウイルスのPCR検査で陽性の結果が出た者をいう。
- ⑥ 濃厚接触者：陽性者と感染の可能性のある期間に接触し、保健所がそう認定した者をいう。
- ⑦ 感染リスク者：保健所が濃厚接触者の認定をしない（連絡がない）場合などで、濃厚接触者の候補、検査対象者に該当する者をいう。
- ⑧ 有症状者：発熱又は風邪等の症状を呈する者をいう。

2. 感染防止のための基本的な考え方

(1) ワクチン接種について

当ガイドラインには、舞台芸術公演における、主として稽古場、本番における、感染防止対策の詳細が書かれております。これらは、来場されるお客様と共に、公演に関わるすべてのアーティストやスタッフが、安心・安全に上演できるためのガイドラインです。

その前提として、現在（2022年5月時点）、舞台公演において、当ネットワークが、最も有効な感染防止対策として考えているのは、事前PCR等検査とワクチン接種です。これは、今後の活動を可能な限り、平常に近い形で継続するために、現在考えられる最善策だと思います。特に、可能な限りの公演関係者のワクチン接種を推奨いたしたく思います。

私たちが携わる舞台芸術は、舞台上でマスクを外して発声するなど重要な感染対策がとれない場合があるため、一般的な職業や日常生活よりも一段と強い対策の考えが必要です。現在問題になっている変異株（オミクロン株）は、従来株に比べ感染力が強く、若年中壮年齢層にまで感染が広がり重症者が発生するなどしており喫緊の対策が必要です。そうしたなか、ワクチンを三回以上接種した人の感染者発生率、重症者数は接種していない人に比べて明らかに低下していることが厚生労働省の調べで分かっており（下記参照2頁）、舞台稽古場等でクラスターが発生した事例においても同様の報告がされています。専門家からも「公演関係者のワクチン接種率9割以上を目指すこと。ワクチン接種が現在取れる有効な手段である」と強く推奨されています。

※参照：「ワクチン接種歴別の新規感染者数（厚労省）」（令和4年5月27日）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000945978.pdf>

ただし、ワクチン接種は個人の自由意思による選択であること、また事情により接種できない方もいること等へのご配慮をお願いします。同様に、副反応や不安感などを理由に、接種を希望する個人の意思に反して接種を受けることを妨げるようなこともお控え下さるようお願いいたします。

また、ワクチン接種を希望しても接種機会が十分用意されていない地域もあります。ネットワークとしては希望するすべての人にワクチンを接種する機会が速やかに用意されるよう今後も接種体制の拡充を目指します。

(2) 公演実施にあたって

劇場・ホール等において、公演主催者及び施設管理者、またはそれに関係する団体並びに個人は、会場の規模や様態を十分に踏まえ、会場及びその周辺地域にて、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、必要となる負担を考慮に入れながらも最大限の対策を講じる必要があります。

劇場・ホール等における以下の a～c の特徴を踏まえて、本ガイドラインに基づく具体的な対策を講じていくよう提唱します。

- a. 各種法令等により高機能の空調設備の整備が義務付けられており、換気性能（20 m³/時・人以上）を有している。もしくは管轄行政の興行場法に則った性能を維持している。
- b. 公演中は、来場者は一方向を向き対面による大声での会話等が原則想定されない。
- c. 原則として座席が設置されており定員数も明らかなため時差式の入退場等も可能。

全国的又は広域的な人の移動が見込まれ、公演会場への入退場や区域内の行動管理ができないものは、開催を慎重に検討するとともに、来場者が 1,000 人を超えるような大規模なイベントについては、収容率の制限等を含め、施設が所在する都道府県と事前に相談し、感染防止安全計画策定等に係る事務手続きをおこなってください。

収容人数は国の示す目安（事務連絡「基本的対処方針に基づく催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について」）を上回ることはないように調整し、地域の感染状況に変化がある場合、柔軟な判断を行うことが可能な体制としてください。また保健所等の公的機関による聞き取りに協力し、可能な限り、必要な情報提供を速やかに行えるよう努めてください。

(3) 注意しなければいけない場所・場面について

1.密閉空間（換気の悪い場所）、2.密集場所（多数が集まる場所）、3.密接場面（間近で会話や発声が行われる）という 3 つの条件が重なる場所（令和 2 年 3 月 19 日 政府専門家会議提言いわゆる「三つの密」）が、感染を拡大させるリスクが

高いと考えられ、特に三つの密が重なる環境にならないように、感染対策に取り組むことが重要です。なお、一つの密でも一定の感染リスクが避けられないことから、密集・密閉・密接のいずれも避けるように努めてください。

舞台芸術は、練習・稽古等により公演関係者が三つの密が重なる環境に長期間置かれるリスクが比較的高いと考えられます。このような特性を考慮すれば、感染対策は、公演自体はもとより、それ以前の練習・稽古等の段階から徹底して行う必要があることを十分に認識する必要があります。

オミクロン株等の変異株の拡大も踏まえ、接触感染・飛沫感染・エアロソル（マイクロ飛沫）感染の経路に応じた感染防止策を講じる必要があります。特に、感染リスクが高まると考えられる「5つの場面」に重点を置いた対策が必要とされています。舞台芸術においては、下記の該当するところが考えられますが、後述する内容に従って具体的に対応することにより、安全に運営できることが可能であると考えますので、本文を熟読した上で十分な対策を講じるようお願いします。

（場面1）飲酒を伴う懇親会等

- ・飲み会、初日乾杯、打ち上げ、など

（場面2）大人数や長時間におよぶ飲食

- ・打ち合わせ、密集状態での飲食、など

（場面3）マスクなしでの近接距離・大声での会話

- ・場当たり、ゲネプロ、本番、オーディション、取材、など

（場面4）狭い空間での共同生活

- ・楽屋、控室、休憩スペース、ロビー、食堂、喫煙所、車内、宿泊施設、など

（場面5）居場所の切り替わり

- ・稽古場から劇場入り、ツアーなどでの劇場移動、など

（4）正しいマスクの着用について

マスク着用に関しては、ワクチン接種の有無に関わらず、使用時にはしっかりと鼻にフィットさせた着用を徹底し、フィルター性能の高い不織布マスクを使用し、正しいマスク着用を徹底してください。（参考資料①）

3. 主催者及び施設管理者、またはそれに関係する団体並びに個人が講ずる具体的な対策

(1) 各所における対応策

① 共通

- オミクロン株等の変異株の拡大も踏まえ、正しいマスク着用を徹底する。正しいマスク着用について掲示等で周知し、確認できない場合は、個別に注意等を行う。
- 会場内（会場入口、チケット窓口、ロビー 他）において、列を作る際には、一定の間隔（最低1m）を空けるよう案内し、人が密集しないよう徹底する。
- 開場の際には施設内のドアノブや手すり、ボタン等不特定多数が触れやすい高頻度接触部位は定期的に消毒を行う。なお、消毒液は、当該場所に最適なものをを用いるようにする（以下、消毒に関する記載において同じ）。
- こまめな手洗い、手指の消毒を励行する。
- オミクロン株等変異株の拡大を踏まえ、適切な空調設備を活用した機械空調設備は興行許可を取得した際の換気性能（会場内は一人あたりの外気量 20 m³/時・人以上）もしくは管轄行政の興行場法に則った性能を確保する。ドア・窓の開放など可能な方法を用いて公演の前後及び公演の休憩中に、会場内のこまめな換気を行う。また、施設管理者と公演主催者とで調整の上、公演中は常時換気を行う。
- 乾燥により湿度が下がる場合は、湿度が40%以上になるよう適切な加湿を行う。
- CO₂ 測定装置の設置と常時モニター（1,000ppm 以下目安）の活用を検討する。（※機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安。）なお、CO₂ 測定装置を設置する場合は、室内の複数箇所で測定し、特に換気が不十分となりやすい場所に設置する。
※参照：二酸化炭素濃度測定器の選定等に関するガイドライン（令和3年11月1日）
<https://www.meti.go.jp/covid-19/guideline.pdf>
- HEPA フィルタ式空気清浄機やサーキュレーターの補助的活用も可とする。

② 客席

- 客席では、正しいマスクの着用が必須であることを周知する。ただし、健康上の理由により、マスクの着用が困難な状態にある方には、ハンカチで口を覆う

ことや、フェイスシールドなどマスク着用に代わる対応を行うことも可とする。

- 客席にて食事を行う際は、会話を控えるよう徹底する。また、飲食時以外のマスク着用、手指消毒、ゴミの適切な処理など、感染防止策を徹底する。
- オミクロン株等の変異株の拡大も踏まえ、場内における大声での声援は行わないことを徹底し、拍手のみとしていただくよう周知する。大声を出す方がいた場合、個別に注意等を行い、入場をお断りする等の対応を検討すること。
- 来場者による大声での歓声・声援等がないことを前提とした公演、地域の感染の収束状況、公演の内容、上演時間等、感染リスクが低いと判断される公演については、適切な感染防止策を徹底したうえで、収容定員までの配席数（国の事務連絡や各都道府県の要請等による、上限人数、収容率を満たす席数。最前列席については下段記述参照。）とすることが可能。
- 客席では大声での会話を控えるよう、注意を促す。大声での会話を誘発する可能性があることから、BGMの音量を上げすぎないように留意する。
- 舞台端と、対面して座る観客の最前列までを（水平方向で）2m 程度確保すること。または、発声を伴うアクティグエリアから観客の最前列までを（水平方向で）2m 程度確保すること。

※第四版改訂における留意点

なお、感染力が強いと考えられる変異株などの感染拡大に伴い比較的狭い空間では感染リスクが高まる可能性が考えられます。この改訂により、これまでよりも距離が近くなる場合や、アクティグエリアが明示されない可能性も考えられます。現場の実態に即した改訂であることをご理解いただき、空間に適切な距離の確保をお願いします。なお、換気は極めて重要です。

合わせて、これまでは2m以上確保が難しい場合「ビニール幕等を設置するなど、距離を置くことと同等の効果を有する措置」との記載がありました。しかしながらこれは解釈に幅のある表現だったために、十分な対策とは言えない措置でクラスターが発生した事例が確認されています。ビニール幕やアクリル板などは設置の方法によっては空間の換気に悪影響を及ぼす場合があり、フェイスガード・マウスシールドなどは一定の効果を得られないことが分かってきました。

この2mの確保を正しく遵守した公演においてはこれまで舞台と客席間での感染は報告されていません。お客さまに安心して劇場にご来場いただけるよう、公演を主催されるみなさまにはこれまでと同様に対策いただきますようお願いいたします。

③ 会場入口

- 入退場時の密集回避を図るべく、列は一定の間隔（最低1m）を確保するように来場者に周知する。
- 入場の際に、来場者に検温のご協力をお願いする。平熱と比べて高い熱が確認された際には入場をお断りすることを事前に周知し、他日への振替対応などの各主催者の対応方法をHP等で周知する。
- 入場時のチケットもぎりの際は、担当者は正しいマスク着用をする。
- こまめな手洗い、手指の消毒を励行するとともに、会場入口に、手指消毒用の消毒液を極力設置するようにする。消毒液は定期的な交換を行う。
- 開場時間は来場者の密集を避けるべく、時間的に余裕をもたせ、来場者に予め周知しておく。

④ チケット窓口

- 対面で販売を行う場合、正しいマスクの着用とともに、換気に注意をした上で可能な範囲でアクリル板や透明ビニールカーテンを設置し、購買者との間を遮蔽するよう努める。
- 現金の取扱いをできるだけ減らすため、オンラインチケットの販売やキャッシュレス決済を推奨する。

⑤ ロビー、休憩スペース

- ロビー、休憩スペースでは、一定の間隔（最低1m）を空けるよう案内する。
- 常時換気を行う。
- 飲食が伴うスペースは、対面防止、飲食時以外のマスク着用、仕切りでエリアを分けるなど、飲食用の感染防止策を徹底する。
- 対面での飲食や大声での会話を控えるよう場内に表示や放送等により促す。
- 開場時、休憩時間、終演後に、来場者が密集・滞留しないよう、段階的な入退場を場内アナウンスや掲示物等で周知する等、各劇場空間に準じて工夫に努める。
- テーブル等の物品の消毒・清掃を定期的に行う。
- 公演関係者が使用する際は、入退室の前後に、手洗いや手指消毒を行う。

⑥ トイレ

- 不特定多数が触れる高頻度接触部位は定期的に清掃・消毒を行う。

- 共通のタオルは使用しない。ペーパータオルの設置を推奨する。
- トイレの列を作る際などには、一定の間隔（最低 1m）を空けるよう案内する。

⑦ 飲食施設、グッズ売り場等

- 常時換気を行う。
- 現金の取扱いをできるだけ減らすため、キャッシュレス決済を推奨する。
- 混雑時の入場制限を行う。列を作る際などには、一定の間隔（最低 1 m）を空けるよう案内する。
- 食器・テーブル等の消毒を徹底する。
- 飲食施設・グッズ売り場等に関わる従業員は、正しいマスクの着用と手指消毒を徹底し、飲食施設の利用者にも手指消毒を行ってから入場するように促す。
- 飲食施設では、家族等の同一グループと他のグループとの距離が一定の間隔（概ね 1 m 以上）となるよう各店舗において席の配置を工夫するか、アクリル板等の設置により席間を遮蔽し、換気に注意をしたうえでマスクを外している間は大声での会話を控えるよう周知すること。
- ユニフォームや衣服はこまめに洗濯するように努める。
- 対面で販売を行う場合、必要に応じて換気に注意をしたうえでテーブル上に区切りのパーティション（アクリル板等）を設けるなど工夫する。

⑧ 楽屋、控室、喫煙所等

- 常時換気を行う。
- 正しいマスク着用を徹底する。
- テーブル等の物品の消毒を定期的に行う。
- 鏡前は、一定の間隔（概ね 1 m 以上）を空けるように心がけるなど、上演関係者間の感染リスクを低減するよう努める。
- 喫煙所は 1 名ずつの単独で使用する。または 2m 程度の間隔を空けてマスクを外している間は会話を控えること。

⑨ 清掃・ゴミの廃棄

- 清掃やゴミの廃棄を行う者は、正しいマスク着用や手袋の使用を徹底する。
- 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄すること。

■作業を終えた後は、手洗いや手指消毒を行う。

⑩ 車内、宿泊施設など

■車両を利用する際は、正しいマスクの常時着用、大声や長時間の会話を控え、余裕を持った乗車人数にし、常時換気を行い、長時間の移動は極力控える。

■宿泊を行う際は、極力個室を利用することとし、普段生活を共にしていない者同士の共同生活を控えること。

(2) 公演関係者に関する感染防止策

<健康管理>

■公演関係者や、その周辺の人々の健康を守ることを第一と考え、日常的な検査の更なる活用・徹底を図る。

- 普段から、健康観察アプリなどを活用し、毎日の健康状態を把握する。
- 体調が悪い場合には現場に向かわず、自宅療養する内部ルールを徹底する。
- 現場にて体調が悪い者が見出された場合や、発熱などを訴えた場合、抗原検査キットの活用やPCR検査を検討するなど、速やかに対応する。

■特に、出演者については、毎日の体温測定を含む健康観察を徹底し、感染リスクの高い場所への出入りは控えるとともに、本人のみならず、その同居する家族等の感染防止策も重要であることを周知する。

■接触確認アプリ（COCOA や自治体独自の通知アプリ、QR コードを活用したシステムを含む）等の利用を促し、「電源を ON にしたうえで Bluetooth を有効にする」ことを推奨する。

■公演主催者は、上演関係者全員の緊急連絡先や会場までの移動経路を把握する。

<有症状者が発生した場合>

① 上演関係者に陽性者が発生した場合

■陽性が確認された者は、公演主催者に連絡の上、地域の状況に応じて保健所の指示に従い自宅待機とする。公演主催者は一度立ち止まり、稽古及び公演が安全・安心に進められる状態か確認する。継続できる場合でも、キャスト・スタッフの安全と健康を最大限考慮して再開すること。

- 陽性者が発覚した直後に行った、公演関係者へのPCR検査の結果が陰性でも、潜伏期間などにより発症まで数日を要することもあるため、経過を注視すること。

② 上演関係者に濃厚接触者が発生した場合

- 濃厚接触者であることを通知された者は、公演主催者に連絡の上、地域の状況に応じて保健所の指示に従い自宅待機とする。ただし、キャスト・スタッフの安全と健康を最大限考慮し、経過を注視したうえで、稽古前もしくは開演前6時間以内にPCR検査又は抗原検査（参考資料②）を行い、結果が陰性である者は、検査当日の稽古または公演に参加可能とする。稽古または公演が続く場合には、少なくとも陽性者と接触があった当日から7日間、検査は実施すること。

③ 上演関係者について、保健所が濃厚接触者の認定をしない、または保健所から連絡がなく濃厚接触者が不明な場合

- 公演主催者が感染リスク者（濃厚接触者の候補に該当する者、検査対象者）を判定し（参考資料③）、自宅待機とする。ただし、キャスト・スタッフの安全と健康を最大限考慮し、経過を注視したうえで、稽古前もしくは開演前6時間以内にPCR検査又は抗原検査（参考資料②）を行い、結果が陰性である者は、検査当日の稽古または公演に参加可能とする。稽古または公演が続く場合には、少なくとも陽性者と接触があった当日から5日間、検査は実施すること。
- 感染リスク者に該当しない者は、稽古または公演に参加することができる。その場合も発熱などの症状がでないか経過を観察すること。

④ 運営スタッフやその他の関係者から、陽性者・濃厚接触者が出た場合

- 当該陽性者及び濃厚接触者が、上演関係者との接触・接点がない場合は、感染が広がらないように細心の注意を払った上で、稽古または公演を開催することができる。

<公演前の対策>

- 公演主催者は、練習・稽古や仕込み等の段階から感染対策を徹底して行う必要があることを周知する。

- 交代制とすることなどにより、一度に参加する人数を最小限とし、密な空間の発生防止に努める。また、稽古場の滞在時間を最小限とするよう呼びかける。
- 稽古場は、常時換気を行う。
- 練習・稽古中は、表現上困難な場合などを除き、距離が接近するような場においては原則として正しいマスク着用を求める。
- オミクロン株等の変異株の拡大も踏まえ、こまめな手洗い、手指消毒を徹底する。
- 機材や備品、用具等の取り扱い者を選定し、不特定者の共有を制限する。
- 機器・小道具や手すり・ドアノブ等の不特定多数が触れやすい高頻度接触部位は定期的に消毒を行う。
- 飲食の際は、隣り合う人との距離が一定の間隔（概ね1 m 以上）となるよう席の配置を工夫し、マスクを外している間は、会話は控えること。
- 飲み会など、大人数で飲食を伴う行為は行わないことを徹底する。

<公演当日の対策>

- 公演の安全で円滑な運営に必要な最小限の人数となるよう工夫する。
- 自宅で検温を行うこととし、平熱と比べて高い発熱が認められる場合には自宅待機とする。
- オミクロン株等の変異株の拡大も踏まえ、正しいマスク着用や公演前後の手洗い、手指消毒を徹底する。
- 控室、楽屋等は常時換気を行う。
- 機材や備品、用具等の取り扱い者を選定し、不特定者の共有を制限する。
- 仕込み、リハーサル、撤去において、十分な時間を設定し、密な空間の発生防止に努める。
- 表現上困難な場合を除き、距離が近接する場合には正しいマスク着用を原則として求めるとともに、一定の間隔（概ね1 m 以上）を取るよう努める。
- 劇場内では常時換気を行う。
- 舞台上で触れる機器・小道具等、また舞台面の清掃・消毒を行う。
- テーブル等の物品の消毒を定期的に行う。
- 食事を提供する場合は、1 回分ずつ分けて配布できるものとし、ケータリング形式では行わない。また使い捨ての紙皿やコップを使用するか、個人でタンブラー等を用意するよう促す。
- 飲食する場所について、人数制限や利用時間をずらすなどの工夫を行うこと。

- 飲食の際は、隣り合う人との距離が一定の間隔（顔の正面からできる限り 2m を目安に最低 1m 距離を確保することを含め真正面の座席配置回避）となるよう席の配置を工夫するなど、換気に注意をしたうえでアクリル板等の設置により席間を遮蔽すること。
- 飲食時、マスクを外している間は、会話は控えること。
- 終演後の面会を禁止するなど、キャストと来場者との接触を確実に防止する措置を講ずる。

<公演後の対策>

- 関係者の感染が疑われ、保健所等の聞き取り調査がある場合にはこれに協力し、必要な情報提供を行う。
- 交通機関・飲食店などの分散利用を注意喚起する。
- 初日乾杯や打ち上げなど、大人数で飲食を伴う行為は行わないことを徹底する。

(3) 来場者に関する感染防止策

<公演前の対策>

- 舞台芸術公演は、業種別ガイドライン「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン」に則って行うものとし、事前に公演の HP 等に掲載する。
- チケットシステム等により公演ごとに、来場者の氏名、及び緊急連絡先の把握に努める。事前に把握できない来場者についても、できる限り把握を行う。また、来場者に対して、こうした情報が来場者から感染者が発生した場合など必要に応じて保健所等の公的機関へ提供され得ることを事前に周知する。
- 広域からの来場者や高齢者、及び既往症のある方など、重症化リスクの高い入場者に向けては、チケット発売時に先駆けて、感染予防策、注意事項等を周知するよう努める。
- 地域の感染状況によっては、身体的距離の確保のため座席間隔を空ける等の工夫を行い、可能な限り座席指定でのチケット販売を推奨する。
- 感染防止対応策として、来場前の検温の要請とともに、来場を控えてもらうケースを事前に十分周知し、チケット発売時に先駆けて他日への振替対応などの各主催者の対応方法を HP 等にて周知する。

- HP やチケット購入時の周知やパンフレットへの掲載など、来場予定者や公演関係者へ接触確認アプリ（COCOA や自治体独自の通知アプリ、QR コードを活用したシステムを含む）等の利用を促し、「電源を ON にしたうえで Bluetooth を有効にする」ことを推奨する。
- 事前に公演前及び公演後の特定の場所での滞留回避や、交通機関・飲食店などの分散利用を注意喚起する。

<公演当日の対策>

① 周知・広報

- 感染予防のため、施設管理者と協力の上、来場者に対し以下について、施設内で掲示等を行うなど、周知を徹底する。
- オミクロン株等の変異株の拡大も踏まえ、距離が近接になる場面での正しいマスクの着用、咳をする場合には腕で口を覆う（咳エチケット）。
- こまめな手洗い、手指の消毒を徹底する。
- 列を作る際などには、一定の間隔（最低 1m）の確保をに務める。
- 下記の症状に該当する場合、来場を控えることを周知する。
平熱と比べて高い発熱、極端な咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、味覚・嗅覚障害、下痢、嘔気・嘔吐

② 来場者の入場時の対応

- 場内は正しいマスク着用を原則とする。未着用来場者に対しては公演主催者による配布や販売等により着用を徹底する。正しいマスクの着用状況が確認できるようにするとともに、着用していない場合、個別に注意等を行い、特段の理由なく着用を拒む場合は、入場をお断りする等の対応を検討すること。
- 以下の場合には、入場しないよう要請する。
 - 発熱があり検温の結果、平熱よりも明らかに高い場合（例えば、平熱より 1℃以上、もしくは 37.5℃以上の熱があった場合）
 - 咳・咽頭痛などの症状がある場合
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合
 - 過去 1 週間以内に政府から入国制限、入国後の検査・待機期間を必要とされている国、地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合等（ただし、厚労省が定める「日本入国時の検疫措置」に準ずる場合は、これに限らない）

※参照：日本入国時の検疫措置（厚労省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00209.html

なお、入場料の払い戻しについては各主催者の判断に委ねるところとし、払い戻し措置を行わない場合は、上記入場制限ルールを公演開催前に明示的に規定するとともに、当該内容を事前に周知徹底すること。

- 事前に余裕を持った入場時間を設定し、券種やゾーンごとの時間差での入場、開場時間の前倒し等の工夫をし、必要に応じて、入場制限を行う。
- 入待ちは控えることを徹底する。
- オペラグラス等の貸出物について十分な消毒を行うとともに、十分な消毒が行えない場合は貸し出しを行わない。
- 感染が疑われる者が発生した場合、速やかにあらかじめ特定しておいた医療機関及び保健所等へ連絡し、指示を受ける。

③ 公演会場内の感染防止策

- 接触感染や飛沫感染を防止するため、高頻度接触部位の消毒や換気、正しいマスク着用と大声での会話抑制等、複合的な予防措置に努める。
- 場内における大声での声援は行わないことを徹底し、拍手のみとしていただくよう周知する。大声を出す者がいた場合、個別に注意等を行う。
- 来場者と接触するような演出（声援を惹起する、来場者をステージに上げる、ハイタッチをする等）は行わない。
- 休憩時は密集状況が発生しないように十分な時間を設定し、トイレ・飲食カウンターなどの混雑の緩和に努める。
- 整列をする必要がある場合、マーカーの配置や人員の配置等により、一定の間隔（最低1m）を空けられるよう努める。
- 体調不良の来場者に対応する際は正しいマスク着用を徹底し、手袋などを使用する。また発熱を伴う来場者である場合は、状況と座席番号を確認し、必要な対応を講ずる。

④ 来場者の退場時の対応

- 事前に余裕をもった退場時間を設定し、券種やゾーンごとの時間差での退場等の工夫を行う。
- 終演後の面会禁止、出待ちを控えることなど、キャストとの接触は行わないよう徹底する。

<公演後の対策>

- 公演ごとに、可能な範囲で来場者の氏名及び緊急連絡先を把握し、名簿を作成し保存するよう努める（保存期間を当面 1 か月以上とする）。なお、個人情報保護の観点から、名簿等の保管には十分な対策を講ずる。
- 感染が疑われる者が発生した場合には地域の状況に応じ保健所と連携が図れるよう、所轄の保健所との連絡体制を整えておく。また、保健所等の公的機関による聞き取りに必要な情報を提供し、その判断に従う。公演主催者は、感染が疑われる者がいた場合は速やかに施設管理者に連絡し、対応を協議する。

以上

本ガイドラインは、公益社団法人全国公立文化施設協会「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」と補完し合う関係であり、それぞれの立場から責任ある感染対策を実施することによって、より安全な環境が生まれます。

本ガイドラインの策定にあたっては、政府及び専門家の助言をいただきました。

なお、本ガイドラインの内容は、今後の対処方針変更や、新型コロナウイルスの感染の地域における動向や集団感染（クラスター）の発生状況、専門家の知見を踏まえ、必要に応じて適宜改訂を行うものとします。

※最新の情報に基づいた対策を行うため、下記などを参照してください。

「新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する 11 の知識」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000927280.pdf>

令和 2 年 6 月 30 日（初版）策定
令和 2 年 9 月 18 日（第二版）改訂
令和 2 年 12 月 2 日（第三版）改訂
令和 3 年 10 月 21 日（第四版）改訂
令和 4 年 7 月 22 日（第五版）改訂

参考資料① <正しいマスクの着用について>

マスクの着用にあたっては、

- サージカルマスク（不織布）を選ぶこと
- 品質の確かなものを選ぶこと（JIS規格-T9001 など）
- 自分の顔に合ったサイズを選ぶこと
- マスクを着用する前に、手指消毒を行うこと
- 鼻の形にあわせてすき間をふさぎ、顔にフィットした状態で着用すること
- 鼻だしマスク、あごマスクは行わないこと
- 取り外す際は耳掛け部分（つる）を持ち、マスクの表面（汚染面）には触らないこと
- 取り外したマスクの表面（汚染面）は、どこにも接触させずに、捨てること。
- 取り外した後は、手洗いまたは手指消毒を行うこと

※参照：「正しいマスクのつけ方（厚労省）」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku_00001.html

参考資料② <抗原検査キットの使用について>

抗原簡易キットの使用にあたっては、

- 連携医療機関を定めること
- 検体採取に関する注意点等を理解した職員の管理下での自己検体採取をすること
- 国が承認した抗原簡易キットを用いること

※これら具体的な手順、キットの購入申込先リスト等については、下記参照。

▷事務連絡（令和3年8月13日改訂）

「職場における積極的な検査等の実施手順（第2版）について」（厚労省）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000819050.pdf>

▷事務連絡（令和3年8月5日）

「職場における積極的な検査等の実施手順に関する Q&A について」（厚労省）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000817496.pdf>

▷事務連絡（令和3年8月13日）

「職場における積極的な検査の促進について」（厚労省）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000819118.pdf>

▷事務連絡（令和3年11月19日）

「新型コロナウイルス感染症流行下における薬局での医療用抗原検査キットの取扱いについて」（厚労省）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000857309.pdf>

※抗原検査を行う際は、上記を参照し、医療機関の指示のもと行ってください。

参考資料③ <感染リスク者の判定について>

キャスト及び上演に携わるスタッフについて、保健所が濃厚接触者の認定をしない、または保健所から連絡がなく濃厚接触者が不明な場合において、公演主催者が感染リスク者（濃厚接触者の候補、検査対象者の候補）を判定する場合は、以下の基準を参考にすること。

事務連絡（令和4年3月16日）

「濃厚接触者の特定及び行動制限並びに積極的疫学調査の実施について」（厚労省）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000916891.pdf>

【感染リスク者の候補】

いわゆる「三つの密(密閉、密集、密着)」となりやすい環境や、集団活動を行うなど濃厚接触が生じやすい環境、同一環境から複数の感染者が発生している事例において、

- ・ 感染者からの物理的な距離が近い（部屋が同一、座席が近いなど）者
- ・ 物理的な距離が離れていても接触頻度が高い者
- ・ 同一空間などで感染者と食事の場や洗面浴室等の場を共有する生活を送っている者
- ・ 換気が不十分、三つの密、共用設備（食堂、休憩室、更衣室、喫煙室など）の感染対策が不十分などの環境で感染者と接触した者